

宮城大崎市議会の超党派議員12人で「国民合意なしの安保関連法案をストップさせる大崎市議会議員の会」が発足の記者会見を開きました(3日)。自民党籍の市議ら保守系議員も参加して戦争法案にストップをかける取り組みとして注目されています。

(中相頁二)



宮城・大崎市

超党派議員の会

大崎市は2006年に旧古川市など1市6町が大規模合併してできた宮城県北西部の市です。

1カ月前の7月2日、同市議会(定数30)で「安保関連法案の、国民が納得できるまでの審議を求める意見書」が、当初の予想を覆し賛成15、反対14の1票差で可決。自民党、保守系の議員が賛成に回ったことで逆転可決となりました。市議会は同日に安倍晋三首相と国会に意見書を出す。「国民が納得できるまで」「強行採決はしない」「という思いを込めてのもの」でした。

ところが7月15日に、安倍自公政権と与党は法が国民の批判を無視し、衆院本会議で戦争法案を単独強行採決しました。大崎地域でも怒りの危機感が広がりました。

こうした中、今回の超党派の取り組みに向けてき

かけとなったのは、7月25日に市内で開かれた「憲法9条違反の『安保法制』反対!大崎のつどい」でした。主催は「大崎9条の会」です。150席用意した会場に200人超が参加。熱気にあふれ、最終のレトリードにも150人近くが参加し、戦争法案廃案を市民に呼びかけました。

会場はとよめき、直ちに慎重審議の意見書に賛成した議員全員に行動を呼びかけること。同集会から1週間後の7月31日には会合の会合が開かれました。市議会議員の「九条の会」として発足する案も出されましたが、戦争を起す

会場とよめき行動よびかけ

この会合に参加していた、佐藤勝市議(自)の発言が大きな反響を呼びました。佐藤氏は自民党員で同党の元古川支部長です。「衆院では採決強行されましたが、参院で繰り返させない



発言する佐藤勝大崎市議

戦争法案

「とめる」議員も「自民」

「採決強行繰り返させない世論つくろう」

こと「反対」の一点で広い結果が台意されました。代表に就任した佐藤(自)

で全議員参加のリレートクを予定しています。

日本共産党の小沢和悦市議は「運動の急進な発展の背景には、地域九条の会の粘り強い取り組みの継続がある」と語ります。

安倍首相には出直してもらおう

監事となった佐藤勝市議は、「もともと9条のもとで集団的自衛権はできない」と言い続けてきた。安倍首相には、一から出直してもらおうと、語りま。

同会の幹事長に就任した

旧鹿島台地区で「九条の会」の代表を務める鹿野文永さん(81)は元鹿島台町長・元全国町村会副会長は「意見書採決は、閣議決定反対や環太平洋連携協定(TPP)問題、放射線



鹿野文永さん(元鹿島台町長)

棄物処分場反対の運動など、全体の大きな取り組みの中で起ってきたこと。超満員になった議会傍聴の支えもあった」と述べます。鹿野さん自身、6月28日に200人が参加した鹿島台九条の会総会の開催に向け、300軒を訪問し対話してきました。

いま「国会前のSEALDs(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動」は私たちの希望」と語りつつ、戦争法案廃案に向け「私たちがやれること、どれもひとりで決める手にはならない。しかし、みんなが助け合えば返せる。女性の本性は戦争反対だ。安倍首相に嫌悪感が広がっている」。こう語る目は鋭い光を放ちます。

「九条の会」が力を出すとき

「九条の会」が力を出すとき、20%になれば、法案を強引に通す力はなくなってくる。地域から世論を動かすこと。展望はある。これしかない」

元宮城県白石市長・元全



地域の小集会で話す川井貞一さん=7月30日

「安保法制」反対!大崎のつどい7月25日、大崎市